

ひびしん 経営内容のお知らせ
上半期ディスクロージャー誌
2019.4.1 ▶ 9.30



「日本三大カルスト 平尾台の羊群原」



「眠らないキリン」
太刀浦コンテナターミナル」



福岡ひびき信用金庫

© KSM

令和1年度 上半期の業績について

1 事業概況

令和1年度における我が国経済は、昨年来の世界経済減速の流れもあり、悪化へと転じることも懸念されておりましたが、これまでのところ緩やかな回復基調を維持している模様です。しかしながら、米中摩擦は一進一退の状況を繰り返しており、予断を許さないブレグジット問題、中東をはじめとした地政学上の懸念等、外需に対する不安要素は、むしろ増大しつつあります。

一方、これまで景気を下支えしてきた内需につきましても、この10月からの消費税増税の影響もあり、減速に転じる可能性が指摘されており、全体として日本経済はより不透明感を増しつつあるといえるでしょう。

「Change Challenge Create」をテーマとした中期経営計画は、この上半期で3カ年計画の半分が経過いたしました。このような環境下ではありますが、コア業務純益は今年度も増益で推移しており、金融機関に求められる本来の業務面において、一定の成果を上げつつあります。

令和1年度の上半期業績については、以下のとおりとなっております。

2 業績

預金の状況

上期預金キャンペーンとして、7月8日に移転オープンした城野支店のPRを兼ねた“祝令和第1号新店舗記念定期預金”を6月3日から8月30日まで販売し、74億62百万円獲得することができました。

この結果、預金積金の9月末残高は、対前年同月比123億48百万円の増加の7,100億99百万円となりました。

貸出金の状況

貸出金については、お客様の課題解決に取り組むことによって、貸出金利息の確保を行うよう、事業性融資と消費者ローンに重きを置き営業活動を行った結果、事業性融資では新規事業所先514先を開拓し44億11百万円を獲得、個人向けの貸出については消費者ローンを1,616件の27億73百万円獲得することができました。

この結果、貸出金の9月末残高は、対前年同月比120億63百万円増加の3,520億45百万円となりました。

収益の状況

収益面では、事業性融資及び消費者ローンに力を入れたことから、貸出金利息は対前年同月比55百万円の増加となりました。また有価証券利息配当金につきましても、リスクとリターンのバランスに配慮した運用に取り組み、対前年同月比249百万円の増加、業務収益は増加となりましたが、株式等売却益が減少するなど臨時収益が減少した結果、経常収益は対前年同月比645百万円減少の6,569百万円となりました。

一方、費用面では、資金調達費用の大半である預金利息が対前年同月比34百万円の減少、経費については人件費の減少、物件費の増加により対前年同月比12百万円増加しましたが、国債等債券売却損及び償還損が減少したことで、業務費用は減少しました。しかしながら、貸出金償却や株式等売却損などの臨時費用が増加したことで、経常費用は対前年同月比91百万円増加の5,838百万円となりました。

以上の結果、経常利益は対前年同月比736百万円減少の731百万円、当期純利益は対前年同月比635百万円減少の519百万円となりました。

令和1年度 上半期の業績 (計数)

以下に掲載している諸計数等は、当金庫へのご理解を深めていただくために任意に開示しているものであり、会計監査人の監査は受けておりません。

また、各計数につきましては、単位未満を切り捨てて表示しております。

預金・貸出金の状況

令和1年9月期の預金積金残高は、7,100億円となりました。また、令和1年9月期の貸出金残高は、3,520億円となりました。

■預金積金残高

(単位：百万円)

	平成31年3月期	令和1年9月期
預 金 積 金 残 高	679,355	710,099
流動性預金	353,968	373,301
定期性預金	325,273	336,692
その他の預金	113	106

■貸出金残高

(単位：百万円)

	平成31年3月期	令和1年9月期
貸 出 金 残 高	343,758	352,045
割引手形	5,021	4,013
手形貸付	26,999	29,737
証書貸付	293,217	298,306
当座貸越	18,519	19,987

■業種別貸出金残高

(単位：百万円)

	平成31年3月期			令和1年9月期		
	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)
製 造 業	535	18,805	5.5	532	18,603	5.3
農 業 / 林 業	13	50	0.0	14	54	0.0
漁 業	2	1	0.0	1	0	0.0
鉱業 / 採石業 / 砂利採取業	6	455	0.1	5	430	0.1
建 設 業	1,716	34,803	10.1	1,742	36,080	10.2
電気・ガス・熱供給・水道業	4	859	0.2	4	936	0.3
情 報 通 信 業	75	738	0.2	74	728	0.2
運 輸 業 / 郵 便 業	145	7,560	2.2	149	7,740	2.2
卸 売 業 / 小 売 業	1,235	28,208	8.2	1,240	28,669	8.1
金 融 業 / 保 険 業	55	11,087	3.2	57	12,163	3.5
不 動 産 業	813	60,055	17.5	853	62,974	17.9
物 品 賃 貸 業	27	1,858	0.5	31	1,945	0.6
学術研究 / 専門・技術サービス業	229	2,059	0.6	235	2,131	0.6
宿 泊 業	12	707	0.2	10	628	0.2
飲 食 業	533	4,636	1.3	552	4,511	1.3
生活関連サービス業 / 娯楽業	325	3,662	1.1	328	3,864	1.1
教 育 / 学 習 支 援 業	53	1,636	0.5	55	1,732	0.5
医 療 / 福 祉	314	11,389	3.3	320	12,059	3.4
そ の 他 の サ ー ビ ス	477	8,187	2.4	487	8,116	2.3
地 方 公 共 団 体	12	11,293	3.3	12	13,026	3.7
個 人	23,869	135,702	39.5	23,783	135,646	38.5
合 計	30,450	343,758	100.0	30,484	352,045	100.0

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ひびしん 経営内容のお知らせ

損益の状況

健全な経営を維持し、地域のお客様の信頼に常に応えていける体制を整えるため、経営体質の強化に努めています。

■損益の状況

(単位：百万円)

				平成30年9月期	令和1年9月期
経常収益				7,215	6,569
経常費用				5,746	5,838
業務純益				1,064	1,567
コア業務純益				867	1,238
経常利益				1,468	731
税引前当期純利益				1,492	728
当期純利益				1,155	519

有価証券の状況

当金庫では主に国内の債券を中心に有価証券運用を行っており、令和1年9月期の評価損益は5,741百万円となっております。

■有価証券の状況

(単位：百万円)

	平成31年3月期				令和1年9月期			
	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損
株式	12,517	△1,927	628	2,556	12,594	△1,104	1,016	2,121
債券	131,485	5,302	5,421	119	123,118	5,394	5,471	77
その他	131,222	193	2,868	2,674	144,111	1,452	4,559	3,106
合計	275,226	3,568	8,918	5,350	279,824	5,741	11,047	5,305

(注) 1. 上記の「その他」とは外国証券及び投資信託等です。
2. 評価損益には帳簿価額(償却原価)と時価との差額を計上しております。

不良債権の状況

金融再生法開示債権による不良債権比率は3.36%となりました。不良債権に対しては十分な引当を実施しており、内部留保とあわせて備えは万全です。

■金融再生法上の不良債権残高

(単位：百万円)

	平成31年3月期	令和1年9月期					
	開示残高	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証等による回収見込額 (c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (b/a)	引当率 d/(a-c)
金融再生法上の不良債権 (A)	12,295	11,879	10,609	7,841	2,767	89.31%	68.56%
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,895	3,675	3,675	2,723	952	100.00%	100.00%
危険債権	6,620	6,496	5,816	4,434	1,381	89.53%	67.01%
要管理債権	1,779	1,706	1,117	683	433	65.47%	42.38%
正常債権	332,521	341,369					
合計 (B)	344,817	353,248					
不良債権比率 (A)/(B)	3.56%	3.36%					

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の理由により経営破綻の状態に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

自己資本の状況

当金庫の令和1年9月期の自己資本比率は、国内基準の4%を大幅に上回っており、経営の健全性を維持しております。

■単体自己資本比率

(単位：百万円)

項 目	平成31年3月期	令和1年9月期
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	47,755	48,317
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	46,329	46,859
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,172	1,205
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	252	252
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	141	163
無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	141	163
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	47,614	48,153
信用リスク・アセットの額の合計額	405,122	424,002
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△3,666	△1,513
うち、無形固定資産 (のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△3,666	△1,513
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	17,462	17,462
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	422,585	441,464
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.26%	10.90%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた告示の改正に伴う新しい自己資本規制に基づき算出しています。
なお、当金庫は国内基準を採用しております。

出資金及び会員数の状況

信用金庫は、営業地域内の中小企業や住民の方々を会員とした協同組織の地域金融機関です。地域の皆さまからお預かりしたご預金等をもとに、会員の方はもちろん地域の皆さまに広くご融資しております。信用金庫は地域の中小企業や住民の皆さまに安定した資金を提供することで、地域の再生・活性化を図ることを使命としております。

■出資金および会員数

	平成31年3月期	令和1年9月期
出 資 金 残 高 (百万円)	3,446	3,436
会 員 数 (人)	73,080	72,798